

高齢者救急現場の状況

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部
消防救急課救急係
消防司令 橘山義孝

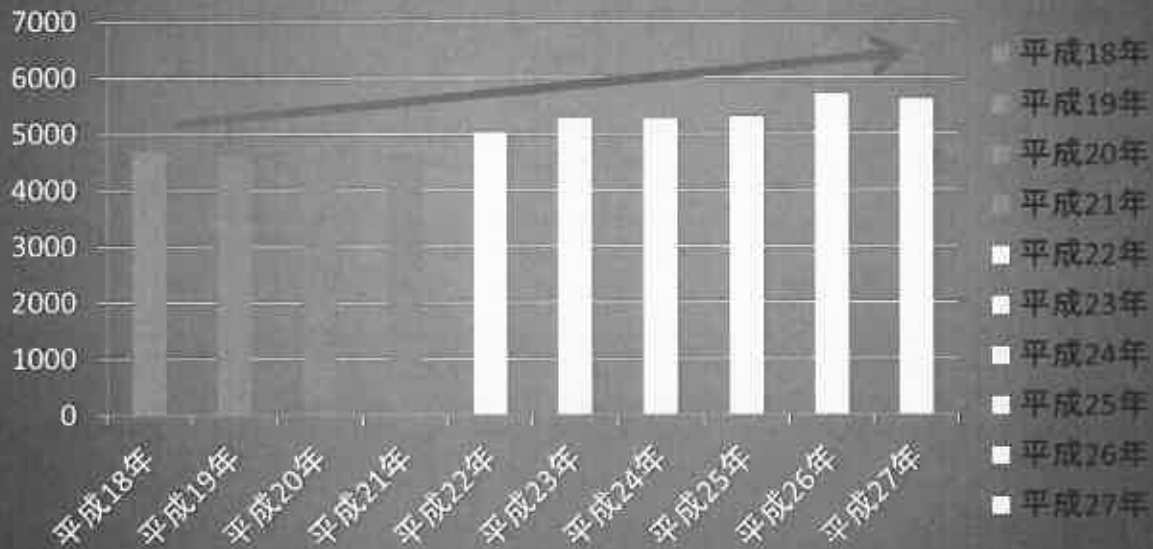
奥州金ヶ崎消防本部の概要

- ・ 奥州市と金ヶ崎町とで消防事務を共同している。
- ・ 構成は、1本部、2署、4分署
- ・ 職員数は、170名
(うち女性は6名)
- ・ 管内人口は、13万6366人
- ・ 世帯数は、5万794世帯
(平成28年8月31日現在)
- ・ 高規格救急車8台で稼働



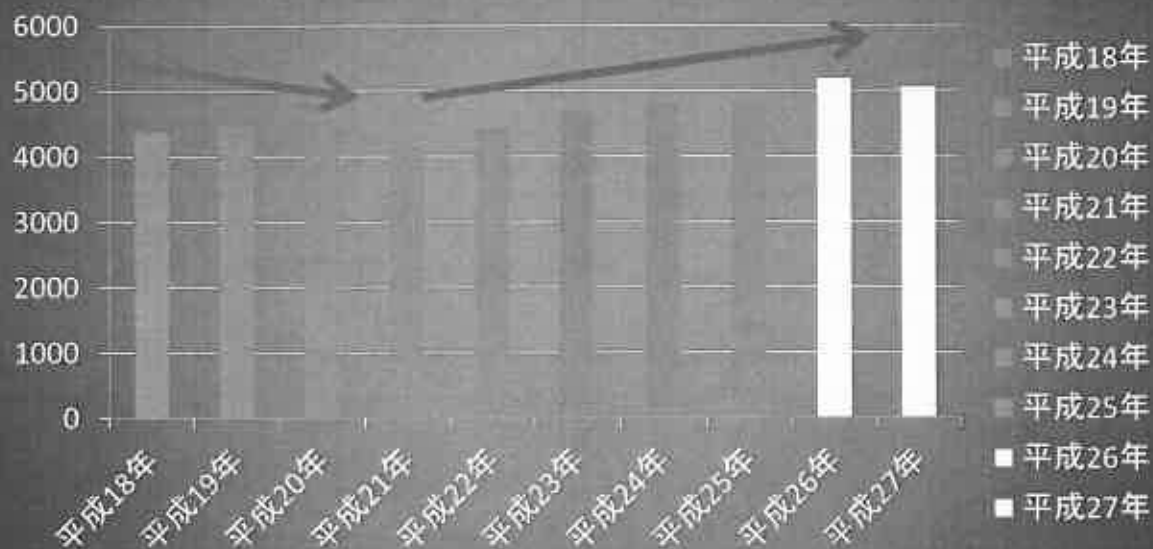
救急出動件数

出動件数

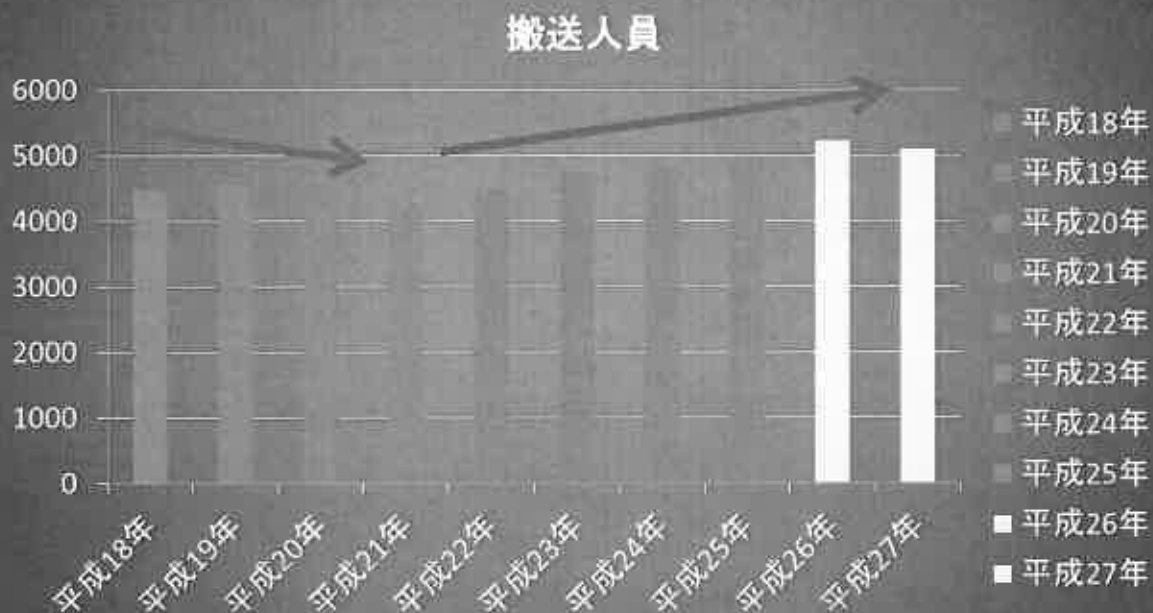


救急搬送件数

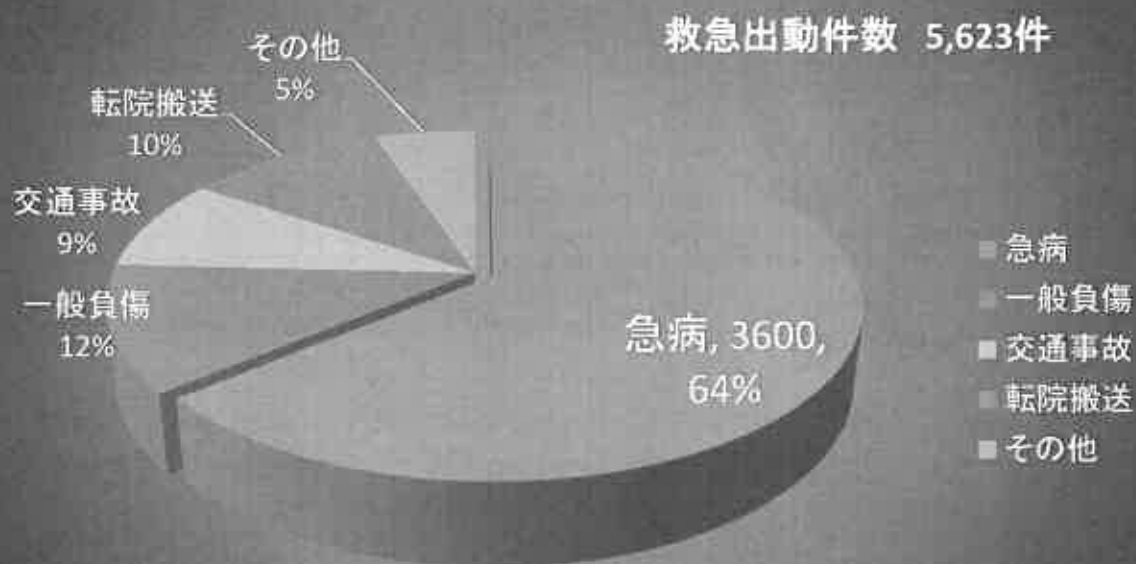
搬送件数



救急搬送人員



平成27年救急概況



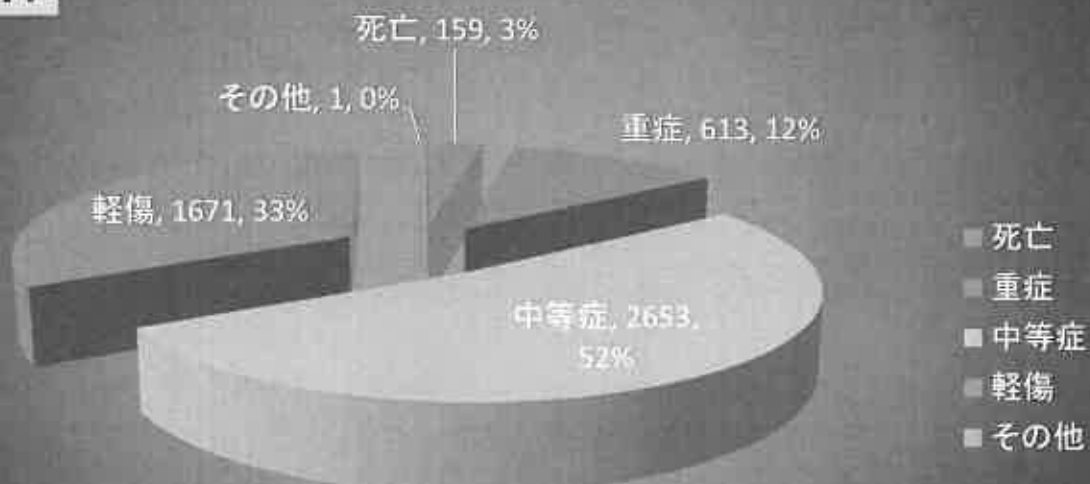
傷病者程度別搬送人員

種別 程度	計	交通	一般負傷	急病	その他
計	5097	431	618	3279	769
死亡	159	1	10	137	11
重症	613	21	54	349	189
中等症	2653	134	267	1788	464
軽傷	1671	275	287	1004	105
その他	1	0	0	1	0

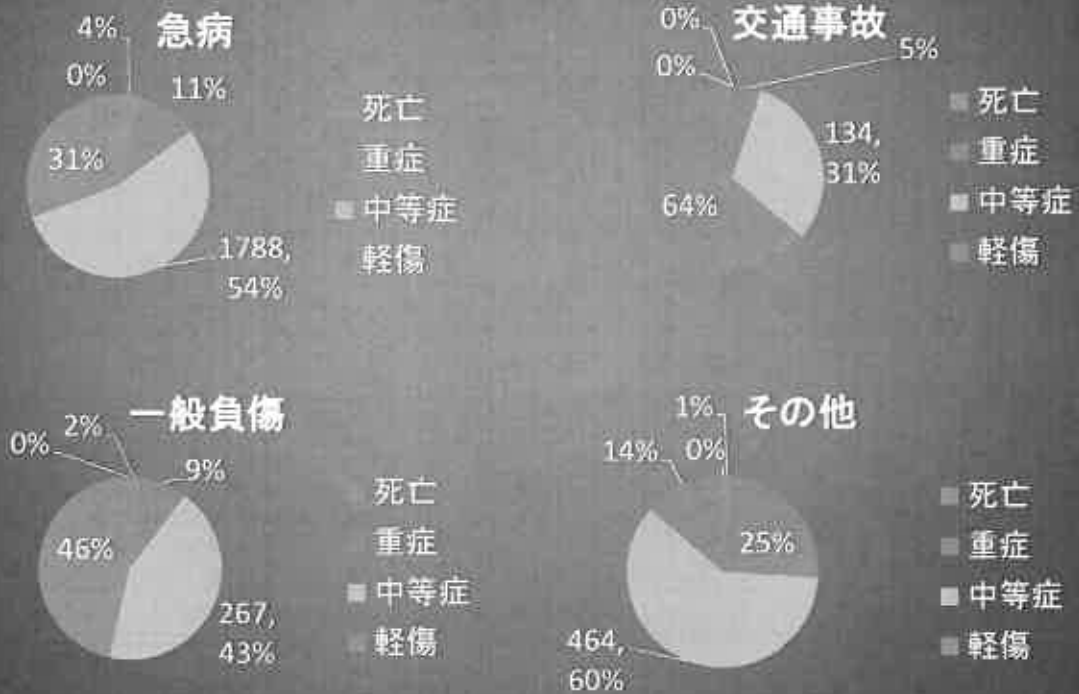
備考：傷病程度は、初診時における医師の診断に基づき分類する
 死亡＝死亡が確認されたもの
 重症＝傷病程度が3週間以上の入院加療を要するもの
 中等症＝傷病程度が重症又は軽傷以外のもの
 軽傷＝傷病程度が入院加療を必要としないもの
 その他＝医師の診断がないもの及びその他の場所へ搬送したもの

傷病程度別割合

全体



事故種別傷病程度別割合



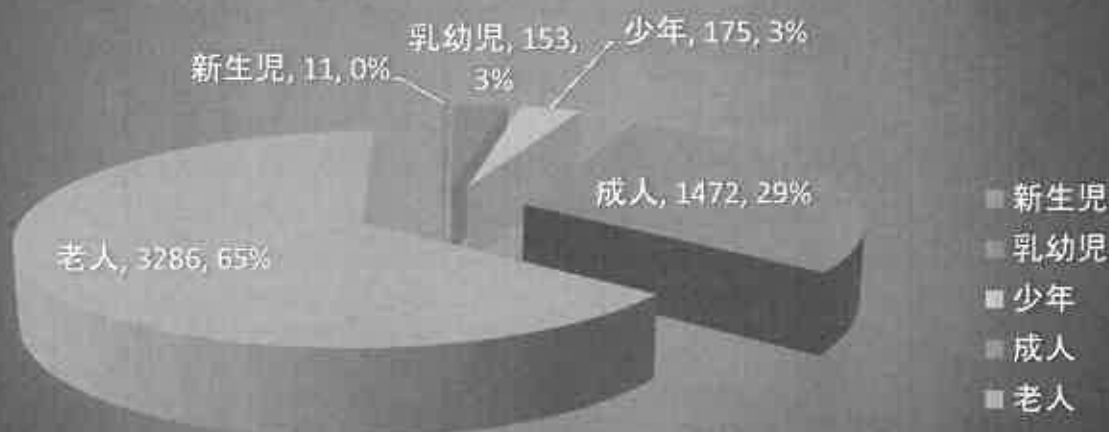
年齢区分別搬送人員

種別 程度	計	交通	一般負傷	急病	その他
計	5097	431	618	3279	769
新生児	11	1	0	1	9
乳幼児	153	11	36	82	24
少年	175	47	25	58	45
成人	1472	228	138	823	283
老人	3286	144	419	2315	408

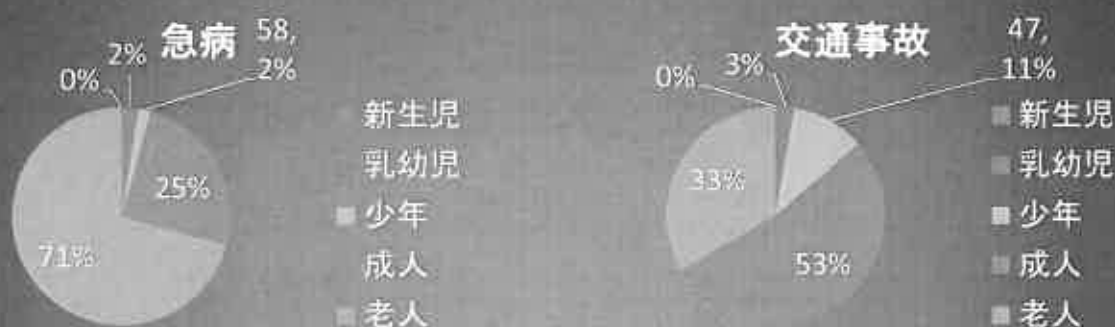
備考:年齢区分
 新生児＝生後28日以内
 乳幼児＝生後29日以上満7歳未満
 少年＝満7歳以上満18歳未満
 成人＝満18歳以上満65歳未満
 老人＝満65歳以上に分類した。

年齢別割合

全体

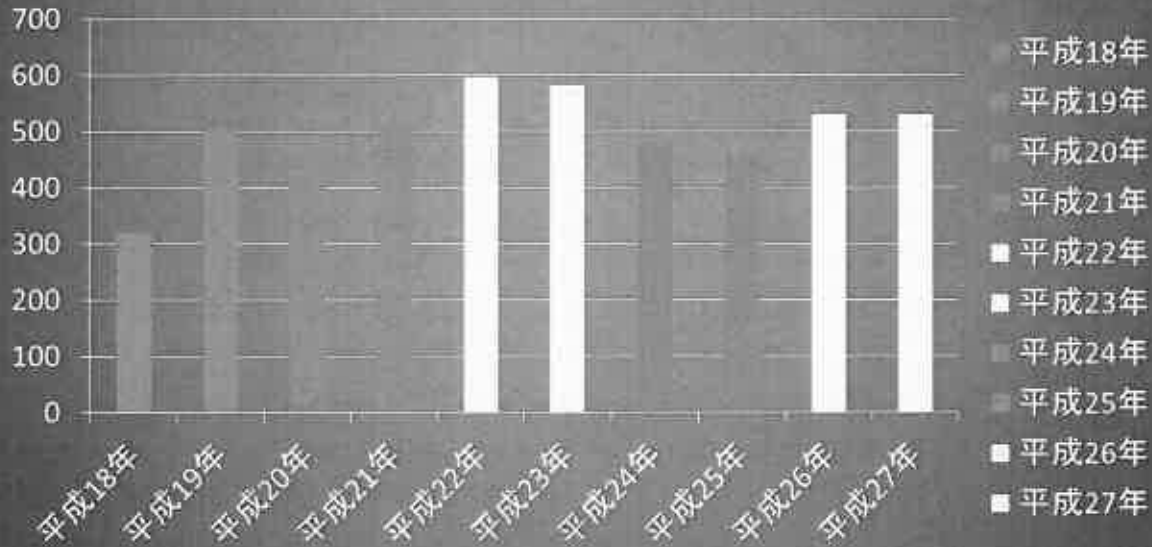


事故種別年齢区分別割合

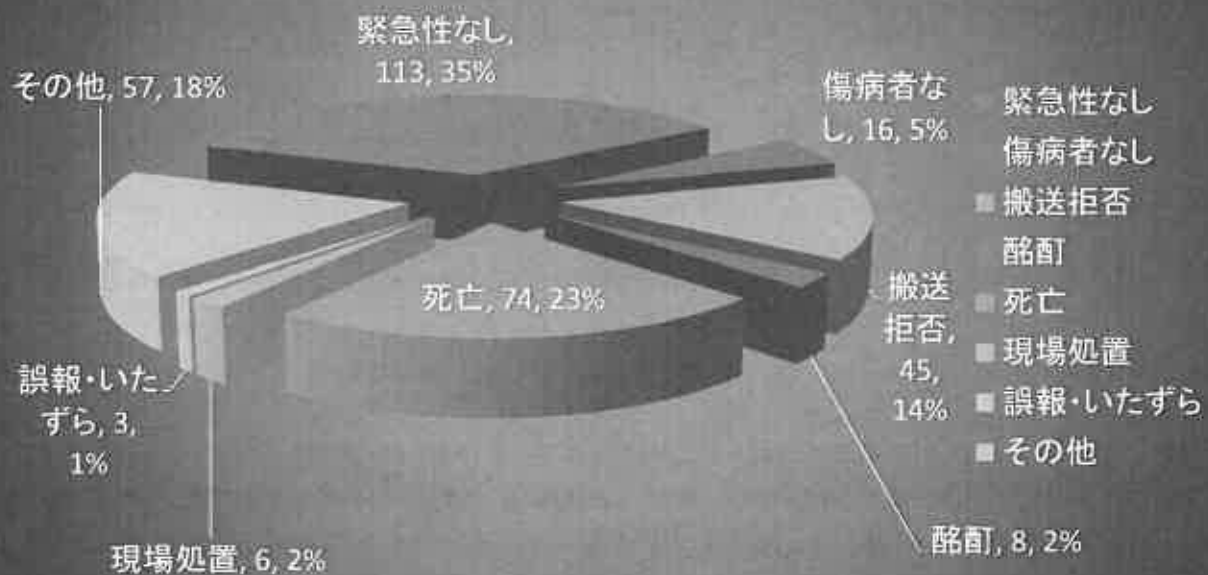


不搬送件数

不搬送



不搬送理由別件数



月別救急活動状況

区分	出動件数	搬送件数	搬送人員	CPA件数	参考
4月	424	378	380	22	2
5月	443	396	402	17	2
6月	429	392	395	13	2
7月	408	382	386	8	0
8月	470	435	437	15	2

事例1

(福祉施設からの救急要請)

平成28年〇月〇日 5時〇分覚知

概要 90歳男性、見回りで部屋を訪れたところ、呼吸がないのを確認、掛かりつけA病院と施設看護師へ連絡、施設看護師からの119番通報。

救急隊現着時、CPA。不搬送と判断し、警察へ連絡する。しかし、その後にA病院に在宅診療を受けていることが判明、容体変化の際は救急車を要請せず、直接医師に連絡する取り決めであった。

※施設内での取り決め(緊急時はA病院へ連絡)があったが、救急要請となった。

事例2

(在宅医療者宅からの救急要請)

平成28年〇月〇日10時〇分覚知

概要 85歳女性、呼吸状態の悪化から救急要請。心肺停止情報あり。

救急隊現着時、家族が在宅医療を受けているB病院医師と電話対応中。救急隊はプロトコールに従い、指示要請(救命処置)をするも同医師から、「在宅で看取り予定の患者である」との説明を受け、救命処置は行わず、病院へ搬送するよう指示される。

B病院医師から、家族に対して容体変化の際は、救急車は要請しないこと決めていたが、別居親族が救急要請したもの。

※あらかじめ、家族への指導が行われているが、家族内で迷いがあるのか？

事例3

(福祉施設からの申し出(相談))

平成28年〇月〇日c施設職員が来署

内容は、急変時の救急処置に関する意思確認書について、施設入所者に、あらかじめ救急処置(気管挿管)を「希望する」、「希望しない」を確認するもの。

これは、医療機関に収容後のレシピ管理について問われたと思うが、救急隊の救命処置も含んでいた。

施設と病院間で考える救命処置(気管挿管)と救急隊が行う救命処置(気管挿管)に相違があると考えらる。

※病院と施設間で考える気管挿管と救急隊の目的とに相違がある事例

事例4

(在宅酸素療法実施の情報提供)

奥州市内のD病院に掛かりつけの、70代男性、ALS(筋萎縮性側索硬化症)を患っており、緊急の際には病院で対応しますので連絡を頂きたい。

※在宅医療の患者情報を医療機関、家族及び救急隊等が共有化することで患者本位の医療提供につながる?

これまでは、難病に伴うもの情報提供やエピペン保持(児童)情報などはあった。

ご清聴ありがとうございました

